

特別支援学校のセンター的機能に関する研究 —学校コンサルテーションの考え方に着目して—

○高垣 尚子
(広島県立尾道特別支援学校)

竹林地 毅
(広島大学大学院教育学研究科)

KEY WORDS: センター的機能、学校コンサルテーション、特別支援教育コーディネーター

(問題の所在と研究の目的)

特別支援学校のセンター的機能に、学校組織に働きかける学校コンサルテーションの考え方を取り入れることで、各学校が自校の支援体制を整備し、一人一人の子どもの支援に主体的に取り組んでいく力を高めていくことが期待されると考える。

そこで、以下の事項を研究の目的とする。

1. 特別支援学校の学校コンサルテーションの現状と課題を検討する。
2. 特別支援学校の学校コンサルテーションの進め方を整理し、今後の特別支援学校(知的)のセンター的機能の在り方について考察する。

(方法)

1. X県の特別支援学校(知的)の教育相談主任への聞き取り調査

(1) 対象

X県の特別支援学校(知的)の教育相談主任 10名

(2) 方法

半構造化面接法

(3) 主な内容

- ・教育相談主任自身の専門性
- ・学校組織に働きかける学校コンサルテーション
- ・巡回相談における教育相談の進め方

(4) 分析方法

文書で依頼をし、了解を得てICレコーダーに録音し、個別に逐語録を作成する。さらに、作成した逐語録を切片化し、複数回検討を行い、カテゴリー化を行う。

(結果と考察)

聞き取り調査の内容を切片化したところ総ラベル数は、1114枚となった。

カテゴリー化により生成されたカテゴリーは、①教育相談主任として仕事する上での強み・やりがい(これまでの教員経験の強み等)②教育相談主任として仕事する上での難しさ(特別支援学校と通常学級の違い等)③教育相談主任自身の専門性を向上させるためにしていること(研修会への参加等)④教育相談主任として働くためのスキル(学校の代表としての意識等)⑤教育相談のポイントとなること(マナーや礼儀の行い方等)⑥教育相談主任の自校での取り組み(後任の教育相談主任の育成等)⑦相手校への学校コンサルテーション(相手校への学校組織へのアプローチ等)⑧外部との人脈づくり(教育相談主任同士のつながりを作る等)の8つであった。

(1) 学校コンサルテーションの必要性: 今回の調査では、多くの教育相談主任が、相手校の学校組織にアプローチすることは、大事なことだと答えた。相手校の教職員で情報を共有し、学校組織で解決していくことの重要性についても挙げられた。教育相談の際も複数で臨んだり、複数で臨めない場合は、管理職やコーディネーターに必ず教育相談後、報告したりする等の工夫をしていた。

また、相手校の学校組織を判断する方法は、教育相談主任それぞれに方法があった。教育相談主任は、学校組織を意識して、巡回相談を行っていると言える。そして、教育相談主任は、学校組織によって対応を変え、学校組織に合った研修・相談をする必要性を考えていた。

田中(2013)は、「いくら助言が正論であっても、なかなか実践できない場合もある。その学校が具体的に実践できるかどうかを見極めて助言をしたい」と指摘している。学校組織を見極め、助言をすることは、大切なことだと考える。また、滝坂(2004)は、「支援、援助サービス提供の中に、自己解決の力を高めるという内容が内在していることが非常に重要」だと指摘している。これらから、各学校には、自校解決の能力を高めることが求められていると言える。

(2) 組織に働きかけ、自校解決に向けた学校コンサルテーションとは: 教育相談主任は、その学校の組織の状態を見分け、組織の段階に合った相談・研修を行う必要がある。また、その学校の力で解決できるよう、学校力を引き出し、支援方法を共に導き出せるよう取り組む必要がある。そして、教育相談を行う際は、複数で行い、相談を終えた際は、管理職やコーディネーターに相談内容を必ず報告する等の工夫をする必要がある。教育相談主任が1つの学校に巡回相談に行くのは、年に数回である。その中で、巡回相談後のフィードバックも必要となってくる。巡回相談後、2~3ヶ月後に、「巡回相談後、取り組んでみてどうだったか」という内容のアンケート調査等を行い、教育相談主任が確認をする必要がある。そして、上手くいかなかった場合は、再度、その学校と支援方法を検討していく必要があると考える。

(3) 今後の課題: 特別支援学校のコーディネーターは、学校コンサルテーションを行い、地域の学校が自校解決できるよう、働きかける必要がある。特別支援学校のコーディネーターには、様々なスキルや知識がもたえられるため、計画的な人材育成や研修の機会の充実が必要となってくる。

また、「多様で柔軟な仕組み」と「多様な学びの場」の整備が求められている今、特別支援学校と地域の学校(幼・小・中・高等学校)は、強くつながり、連携の取りやすい体制づくりが求められている。特別支援学校のコーディネーターは、地域の教育資源の組み合わせ(スクールクラスター)におけるコーディネーター機能の一層の推進(国立特別支援教育研究所, 2013)が必要となってくる。そして、「多様で柔軟な仕組み」と「多様な学びの場」の整備、交流及び共同学習の推進に努め、インクルーシブ教育システム構築を特別支援学校と地域の学校が共に目指していく必要があると考える。

(主要文献)

国立特別支援教育総合研究所(2007)学校コンサルテーションブックその1. 学校コンサルテーションを進めるためのガイドブック~コンサルタント必携~, ジーアス教育社。

(TAKAGAKI Naoko, CHIKURINJI Takeshi)